

令和6年度後期「『みんなで成長』アンケート」の結果について

平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、1月に実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、学校運営協議会でも本結果をもとにご意見を頂戴しましたので、その内容も併せて記載しております。本結果をもとにこれまでの教育活動等を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方々も含めまして共に「みんなで成長」できる下鴨教育をめざしていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育目標

学びを創造し、
共に挑戦する
子どもの育成

めざす子ども像

下鴨小の「a・i・u・e・o」

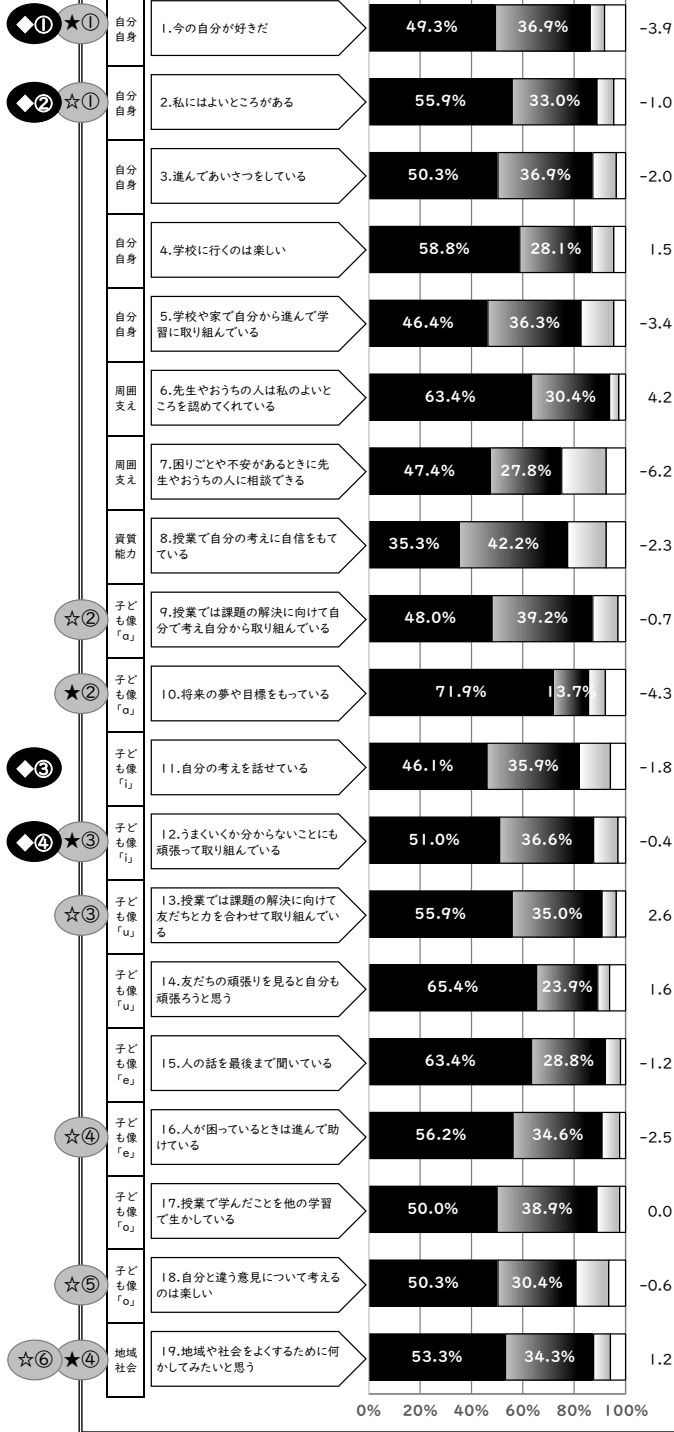
- a**mbition : 見通しをもった志のある子
- i**nnovation : 新たなことにチャレンジする子
- u**nity : 共に力を合わせる子
- e**steem : 自分も相手も大切にする子
- o**riginality : 自分らしい学びを創り出す子



【児童】

有効回答数：306

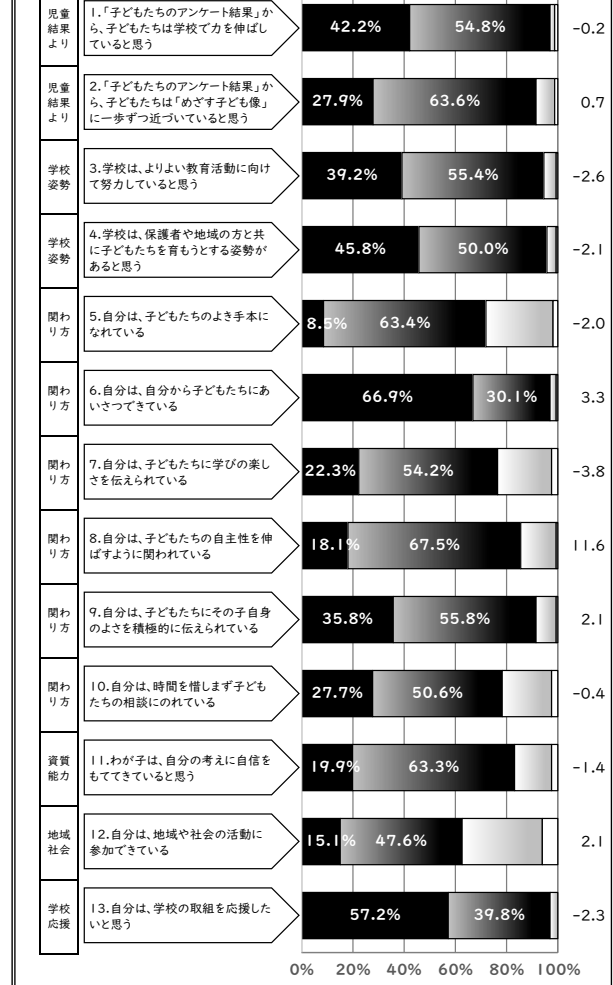
令和6年度前期の肯定的
回答率との比較



【保護者】

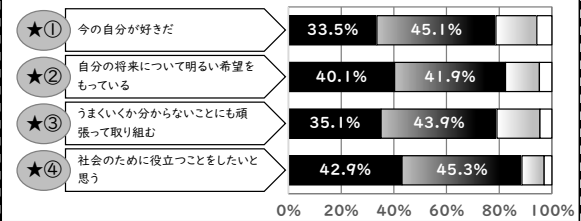
有効回答数：167

令和6年度前期の肯定的
回答率との比較

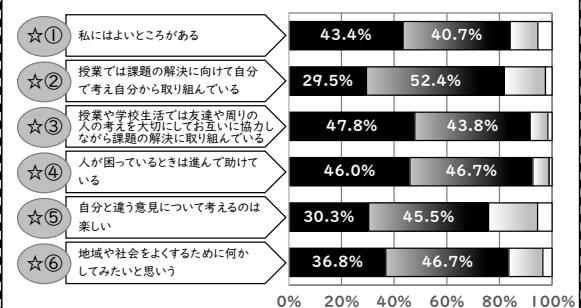


全国的な傾向は…

【参考①】 内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」報告書（令和5年3月）内、「10歳～14歳対象調査」より



【参考②】 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査」より



(カテゴリー)

(質問項目)

あてはまる

どちらかといえば あてはまる

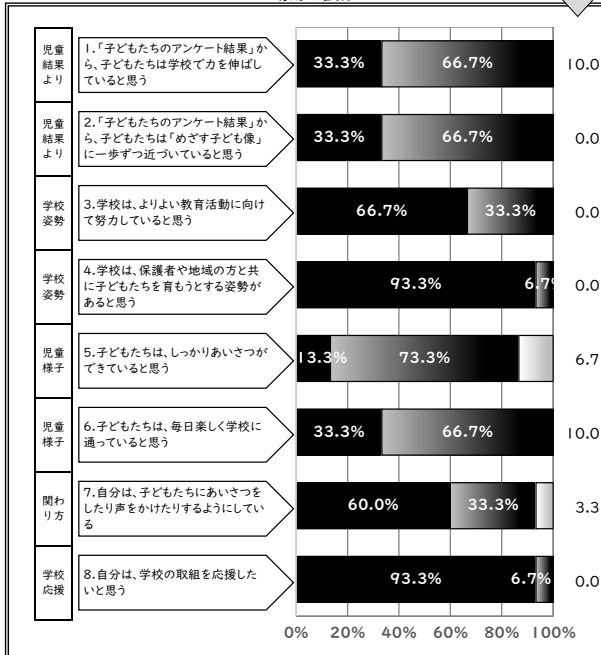
どちらかといえば あてはまらない

あてはまらない

【地域】

有効回答数：15

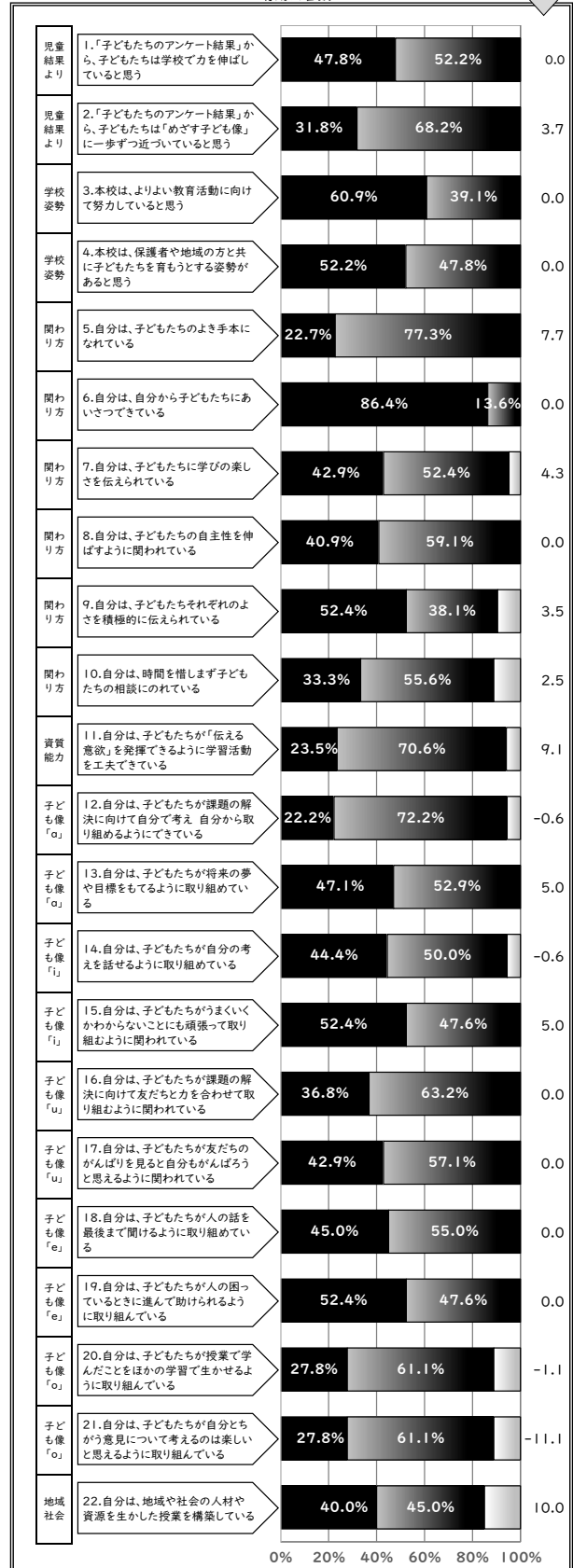
令和6年度前期の肯定的回答率との比較



【教職員】

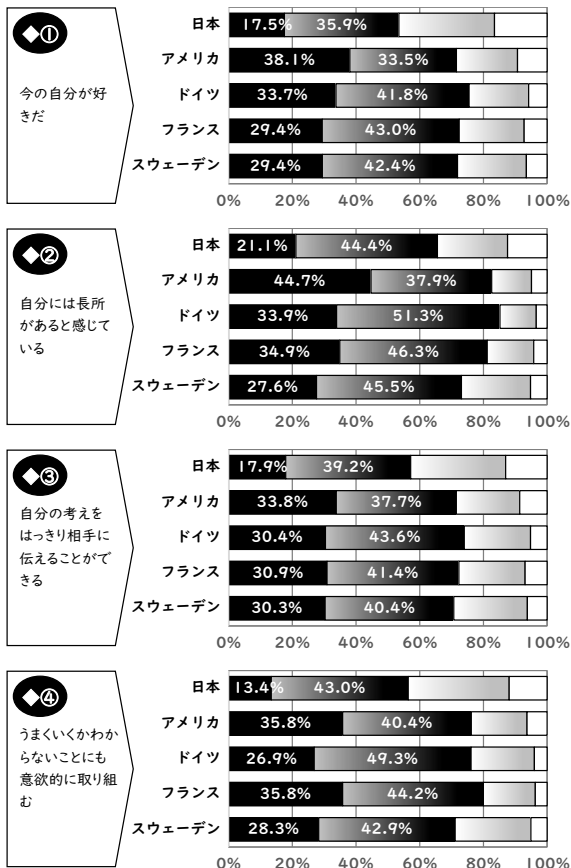
有効回答数：23

令和6年度前期の肯定的回答率との比較



世界的な傾向は…

【参考③】 こども家庭庁「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」（令和5年度）報告書より



《各アンケート結果より》

児童アンケートより

児童アンケートの結果から、多くの児童が「1.今の自分が好きだ」と感じており、自己肯定感が高いことが分かりました。これは、日々の学校生活の中で、自分のよさを認め、肯定的に受け止めることができている証であり、大変喜ばしいことです。一方で、前期と比較すると、自己肯定感に関する数値がやや低下している点が見受けられました。しかし、この変化は、1年間を通じて成長し、自分自身をより冷静に見つめることができるようになった結果とも考えられます。自分の得意なことや課題を振り返る力が付いてきた証であり、児童の成長の一側面として前向きに捉えています。

また、自己肯定感が高い結果が出ている一方で、「8.授業で自分の考えに自信をもっている」という項目については、肯定的な回答が77.5%に留まりました。この結果から、子どもたちの中には「間違えること」を恐れ、発言や挑戦に消極的になっている傾向にある子がいることが分かります。特に、正解までの途中の考え方や多様な意見に対する意識よりも、正解を求める意識が強いように思われます。授業では、正解にたどり着くことだけが大切なのではなく、その過程でどのように考え、試行錯誤するかが重要です。子どもたちが「考えることの面白さ」を実感できるような授業づくりが求められます。

本校のめざす子ども像の『下鴨小の「a・i・u・e・o」の1つに「originality:自分らしい学びを創り出す子」を掲げています。これは、子どもたちが指示通りに動くのではなく、主体的に学びを創造できる力を育むことを意味します。今回のアンケート結果から、子どもたちの自主性を大切に、主体性をさらに伸ばしていくことが今後の課題であると考えています。授業の中で、子どもたちが自分の考えを自信をもって表現し、友達と意見を交わしながら新たな気づきを得るような場面を増やしていきます。間違いを恐れず、試行錯誤を楽しむことができる環境を整えることで、「自分らしい学び」を深められるよう、今後も工夫を重ねてまいります。

保護者・地域アンケートより

「保護者アンケート」中に記述にいただいたご意見等については、3/13(木)～3/19(水)の9:00～17:00まで職員室にて閲覧していただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

保護者・地域アンケートでは、多くの皆様から温かいご意見をいただきました。「1.『子どもたちのアンケート結果』から、子どもたちは学校で力を伸ばしていると思う」「4.学校は、保護者や地域の方と共に子どもを育もうとする姿勢があると思う」「13.自分は、学校の取組を応援したいと思う」といった項目では、いずれも95%を超える高い肯定的な回答が得られました。この結果から、多くの保護者の皆様が本校の教育活動に対して好意的に捉え、応援してくださっていることが分かります。日頃から学校の教育活動にご理解・ご協力をいただいていることに、改めて感謝申し上げます。

また、アンケートの回答数も前期より増加しました。より多くの皆様にご意見をいただけるよう、質問内容の工夫や回答しやすい方法を今後も検討していきたいと考えています。学校・家庭・地域がよりよい関係を築き、子どもたちの成長を支えていけるよう、引き続きご協力をお願い申し上げます。

「11.わが子は、自分の考えに自信をもてきていると思う」という質問には、83.2%の保護者の方が肯定的に回答されました。これは児童アンケートの「8.授業で自分の考えに自信をもっている」(77.5%)、「18.自分と違う意見について考えるのは楽しい」(81.7%)と関連があり、子どもたちが自分の考えをもち、表現しようとしている姿が、ご家庭でも見られていることが分かります。今年度、本校では「伝える意欲」を育むことを意識して取り組んできました。今回の結果からも、その成果が表れていることがうかがえます。しかし、子どもたちが自分の考えに自信をもてていることについては、まだ十分とは言えません。来年度はさらに工夫を重ね、子どもたちが安心して自分の考えを伝え、対話を楽しめる環境を整えていきます。

また、自由記述欄には「教科書などを学校に置かせてほしい」というご要望がありました。これについては、家庭学習に必要な教材は持ち帰ることを基本としつつ、必要に応じて持ち帰りの負担を減らす工夫も考えてまいります。

今後も、子どもたちの学びをよりよいものにするため、ご家庭と協力しながら取り組んでまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

教職員アンケートより

教職員アンケートでは、「7.自分は、子どもたちに学びの楽しさを伝えられている」「11.自分は、子どもたちが『伝える意欲』を発揮できるように学習活動を工夫できている」「21.自分は、子どもたちが自分とちがう意見について考えるのは楽しいと思えるように取り組んでいる」といった項目が目立つ結果となりました。これらは、今年度「伝える意欲」を育むことを授業づくりの中で特に意識してきたポイントです。

中でも、自分と違う意見について考えるのが楽しいと思えるように取り組んでいるという項目は、前期より11.1ポイント減少しました。一見すると課題が増えたようにも見えますが、むしろこの1年間で意識的に取り組んできたからこそ、「もっとできる」という視点が生まれた結果だと捉えています。単に伝えるだけでなく、より深い学びへとつなげる工夫が求められていることが明らかになりました。

今年度は「自分の考えをもち、それを伝える」ことを意識し、子どもたちが自信をもって発言できるよう支援してきました。来年度はさらにレベルを上げ、「伝える」から「伝え合い、深め合う」学びへと発展させていきます。相手を意識しながら伝え、対話を通して考えを広げたり深めたりできる授業を目指します。

学年に応じた伝え合いの形を工夫し、お互いの意見を尊重しながら考えを深め合う活動を充実させていきます。これにより、子どもたちが「伝えることの楽しさ」から「伝え合うことで学びが深まる実感」へとつながられるよう、今後も授業改善に取り組んでいきます。

学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

子どもたちの結果を見ると、全体としては肯定的な回答が多いのですが、あえて気になるところを書かせていただきます。前期との比較でいうと、「1.今の自分が好きだ」、「5.進んで学習に取り組んでいる」、「7.先生やうちのの人に相談できる」、「10.将来の夢や目標をもっている」の低下がやや大きくなっています。また、肯定的な回答の値自体として、上記の5や7に加えて、「8.自分の考えに自信をもっている」や「11.自分の考えを話している」、「18.自分と違う意見について考えるのは楽しい」が、いずれも80%前後でほかの項目よりも低くなっています。これらことから、本校の子どもたちは、自分自身への肯定感や自信をやや低めに回答しているといえます。実際の自分の力をやや過小評価している傾向があるとも考えられます。それは、よく言えば「奥ゆかしい」ことではありますが、やはり、もう少し自分に自信をもって積極的に前に進んでいくんだという気持ちと、そのためには、うちの人や先生に相談したり頼ったりしてもいいんだという身近な大人への信頼感を、もっと高めてあげるのが、私たち大人の責任なのだと思います。

もちろん、各学年の個性による違いや、高学年になるほど学習内容が高度になるなどの影響もあるでしょうし、後期には時節柄活動全般がやや停滞気味になることなどもあるので、細かい数字の変化に一喜一憂する必要はありません。しかし、それらを加味しても、子どもたちがより元気に、前向きに学んだり遊んだり他者と関わったりできるように、家庭でも学校でも、年度後半には特に意識して、子どもたちの様子を見守っていかれたらよいと思います。